

実践のまとめ（第1学年 国語科）

県立津南中等教育学校
教諭 村山 大樹

1 研究テーマ

複数の場面と描写を結び付けて内容を解釈する力を高める授業づくり

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

国語科の新学習指導要領(平成29年3月告示)には、第1学年C読むこと(1)ウに「場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。」とある。この力は解説において、「文学的文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要である。」と説明されており、文学的文章の精査・解釈に欠かせない力である。

しかし、4月に実施した全国学力推移調査※の結果を見ると、文学的文章の読解問題における複数の場面や描写を結び付けて人物の心情を読み取る問題の正答率が低かった。また、1学期の授業アンケートでの生徒の記述を見ると、「国語科はどんな内容を学んだのか、どんな力が身に付いたのか分かりづらい」という声が複数見られた。

こうした状況を踏まえて、本実践では、複数の場面と描写を結び付けて内容を解釈する力を高める指導を行い、その有効性を検証する。そして、生徒一人一人が学びを実感できる授業にしていきたい。

※全国学力推移調査…主に中高一貫校や私立中学校で実施している学力調査

(2) 研究テーマに迫るために

① 自身の考えの変容を実感させるためのICT活用

新学習指導要領の解説に「自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりすることが、文章を深く理解したり作品がもつ魅力に迫ったりすることにつながる」とあるように、多様な解釈にふれることで深い理解を促したい。そのために、ICTアプリケーション「ロイロノート」を用いて、発問に対する考えの変容が実感できる活動を仕組む。生徒同士の対話を通して自身の考えを広げたり強化したりする活動を通して、複数の場面と描写を結び付けて内容を解釈する力を高めたい。

② 複数の場面や描写を結び付けた思考を促すための「続き物語」の作成

文学的文章において、結末のその後を描く「続き物語」を作成する。「続き物語」を考えるためには本文の様々な場面や描写を読み直し、複数の本文記述を結び付けて自分自身の考えを練っていく必要性が生まれる。したがって、複数の場面と描写を結び付けて内容を解釈する力を高めることにつながると考える。結末のその先の「続き物語」を作成することで、一つ一つの場面や描写の把握に留まらず、複数の場面や描写を結び付けて新たな意味付けを行う授業展開が期待できる。

(3) 研究テーマに関わる評価

次の2つの観点から評価を行う。

- ① ICTを活用して交流することで、自分の考えを広げたり強化したりすることができたと実感した生徒が80%以上になる。(アンケート)
- ② 2つ以上の場面や描写を結び付けて、「続き物語」を記述できる生徒が80%以上になる。(ロイロノート記述)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

場面や描写を結び付けて読み、印象に残った部分について語り合おう。
「星の花が降るころに」(国語1 光村図書)

(2) 単元の目標

- ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解し、使うことができる。
[知識及び技能] (1)オ
- ・ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)イ
- ・ 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)ウ
- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

(3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①比喩表現の技法を理解し、描かれている内容を想像することに活用している。【(1)オ】	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。【C(1)イ】 ②「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けることで、内容を解釈している。【C(1)ウ】	①積極的に登場人物の言動や情景描写について考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画(全6時間、本時5/6時間)

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1次(1)	・ 場面のまとまりに注意しながら通読する。 ・ 作品が4つの場面からなることを確認し、「続き物語」を構想する。	・ 学習を見通し、通読する。 ・ 単元の流れを確認し、単元の最終課題の予想を立てる。 ◎ 結末場面の翌日にもう一つ場面があるとしたら「私」の「夏実」への思いはどのように描かれていたろう。	思・判・表 場面と場面、場面と描写などを結び付けることで考えた解釈をもとに「続き物語」を書ける。 【観察・ロイロノート】
2次(2)	・ 第一・二場面の登場人物を確認し、人物相関図を書き、語り手、作中人物の相互関係を捉える。 ・ 第三・四場面を読み、人物相関図に加筆する。 ・ 比喩表現の効果を確認する。	・ 第一・二場面の内容を捉える。 ◎ 第一・二場面の記述を根拠にして登場人物の関係性を相関図で整理しよう。 ・ 第三・四場面の内容を捉える。 ・ 比喩表現が用いられている箇所を見つける。 ◎ 第三・四場面の記述を根拠にして主人公の心情の変化を相関図に書き足そう。	思・判・表 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えて、人物相関図を書ける。 【観察・ワークシート】 知・技 比喩表現の技法を理解し、人物相関図を書くことに活用している。 【観察・ワークシート】

<p>3次 (3) 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小説全体の構成を再確認し、複数の場面や描写を結び付けて「続き物語」の設定を考える。 考えた設定をもとに「続き物語」を作成する。 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一～四場面の描写をもとに、「続き物語」の「時間」「場所」「主人公の心情」といった設定を書く。 ◎ 結末場面の翌日にもう一つ場面があるとしたら「私」の「夏実」への思いはどのように描かれていたろう。 ◎ 「時間」「場所」「主人公の心情」を明らかにして、「続き物語」を作成しよう。 	<p>思・判・表</p> <p>場面と場面、場面と描写などを結び付けることで考えた解釈をもとに「続き物語」を書ける。</p> <p>【観察・ロイロノート】</p> <p>態</p> <p>積極的に登場人物の言動や情景描写について考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。</p> <p>【観察・ロイロノート】</p>
--------------------------	--	--	---

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元で扱う小説「星の花が降るころに」(安東みきえ作)は、2012年度から光村図書教科書(中学校第1学年)に掲載されている。中学校1年生の女子生徒が主人公の文学的文章である。小学校時代とは異なる人間関係の中で、もがいたり安堵を感じたりしながら生活している生徒たちは、自分のことのように感じながらこの作品を読むことになると思われる。また、平易な言葉による語り、短い文で差し込まれる心情の吐露など、生徒にとって読みやすい文章だと考えられる。それだけに、映像が浮かぶような描写や比喩表現を確実に読み取らせたい。

4つの場面で構成される本作品は、語り手である「私」の語りでストーリーが展開していく。友達である「夏実」とのすれ違いや、幼馴染の「戸部君」との関わりを通して「私」の精神的な成長が描かれる作品となっている。結末場面では過去のこだわりを捨てて新たな一歩を踏み出そうと決意したところで物語が終わる。そのため八木(2019)によれば『夏実』との関係が結果的に修復したのか否かや、恋愛への発展をも示唆する『戸部君』との関係がその後どうなったのかといったことについては原作中に明確に言及されることがないため、今後の展開を様々に想像しやすい構造が用意されている教材ともいえよう」とある。したがって、複数の場面や描写を結び付けた思考を促すための「続き物語」を作成するのに適切な教材だと考える。

(2) 生徒の実態

本クラスの生徒は、男子18人、女子21人、計39人である。学習に対し、前向きに取り組む生徒が多い。しかし、ペア活動やグループ活動では、一方向の意見発表に終止することが多く、互いの考えを比較・検討するような対話が不足しているという課題がある。また、ICTを活用できる環境は整っているが、生徒が目目の前のタブレットに釘付けになってしまい、タブレット自体が対話の障害になっているという場面も見受けられる。

5 本時の展開 (令和4年10月12日実施)

(1) ねらい

- 場面と場面、場面と描写などを結び付けて考えた解釈をもとに「続き物語」の設定を書くことができる。
- 積極的に登場人物の言動や情景描写について考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。

(2) 展開の構想

本時では、第一場面から第四場面における場面と描写などを結び付けて「続き物語」の設定を考えさせる。なぜその設定になるのか、本文の記述を根拠にして自分

の考えをもたせ、他者の考えとの比較を通して、自らの考えを広げたり強化したりさせる展開を構想できる。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働きかけ	□評価 ○支援 ◇留意点
5	○小説の構成の確認	・前時までに作成した人物相関図をもとに、小説の構成を確認させる。	○人物相関図のワークシートを準備させる。
38	<p>結末場面の翌日にもう一つ場面があるとしたら「私」の「夏実」への思いはどのように描かれていただろう。</p>		
	○第一～四場面の描写をもとに、「続き物語」の「時間」「場所」「主人公の心情」といった設定を書く。	<p>・ A 「夏実と仲直りする」 B 「夏実と仲直りしない」 C 「どちらでもない」のいずれかの立場をとらせ、以下の手順でロイロノートの付箋に自分の考えをまとめさせる。</p> <p>①主発問に対する自分の立場を付箋Ⅰに書かせる。 ②付箋Ⅰに書いた自分の考えの根拠となる複数の本文記述を付箋Ⅱに書かせる。</p> <p>・付箋Ⅰ、Ⅱに書いた内容をペアでお互いに説明し合う。</p> <p>・交流した仲間の考えを参考にしながら、付箋Ⅰ、Ⅱの内容に加筆・修正を行う。</p> <p>・付箋Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて「私」はいつ、どこで「夏実」に対してどのような思いを抱き、どのような行動をするのか等について付箋Ⅲに書かせる。</p>	<p>○ロイロノートの付箋機能に自分の考えをまとめさせて、考えを交流する際の比較・検討に活用させる。</p> <p>思・判・表</p> <p>場面と場面、場面と描写などを結び付けて考えた解釈をもとに「続き物語」の設定を書くことができるか。</p> <p>【観察・ロイロノート】</p> <p>態</p> <p>積極的に登場人物の言動や情景描写について考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしているか。</p> <p>【観察・ロイロノート】</p> <p>◇1時間目の自分の考えと比較して、考えの変容を実感させる。</p>
5	○自己評価	・振り返りを書く。	・自身の変容について書いてまとめる。

(4) 評価

- ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて考えた解釈をもとに「続き物語」の設定を書くことができたか。(思考・判断・表現)
- ・積極的に登場人物の言動や情景描写について考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしているか。(主体的に学習に取り組む態度)

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

ICTアプリケーション「ロイロノート」を用いることで、互いの解釈の交流が円滑になった。相手の解釈に対して質問することができている生徒もおり、一方向の意見発表に終止せず、互いの解釈を比較・検討する対話につながっていた。その結果、生徒自ら自分の考えを広げたり強化したりして、複数

の場面と描写を結びつけて内容を解釈することができていた。

また、主発問に対する最初と最後の自分の考えを「ロイロノート」上で比較させることで、発問に対する自分の考えの変容を可視化させることができた。(図1・2)

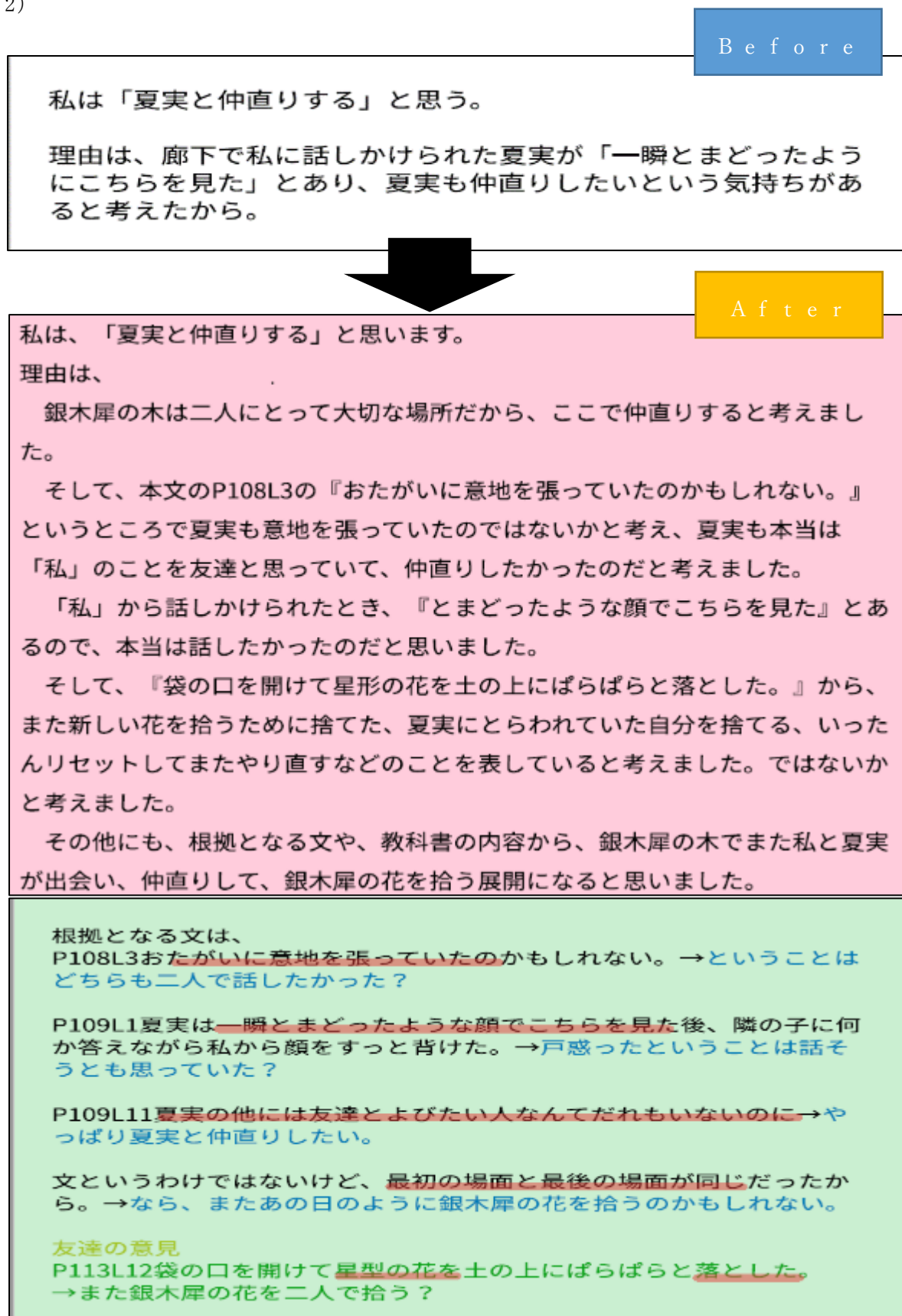


図 1

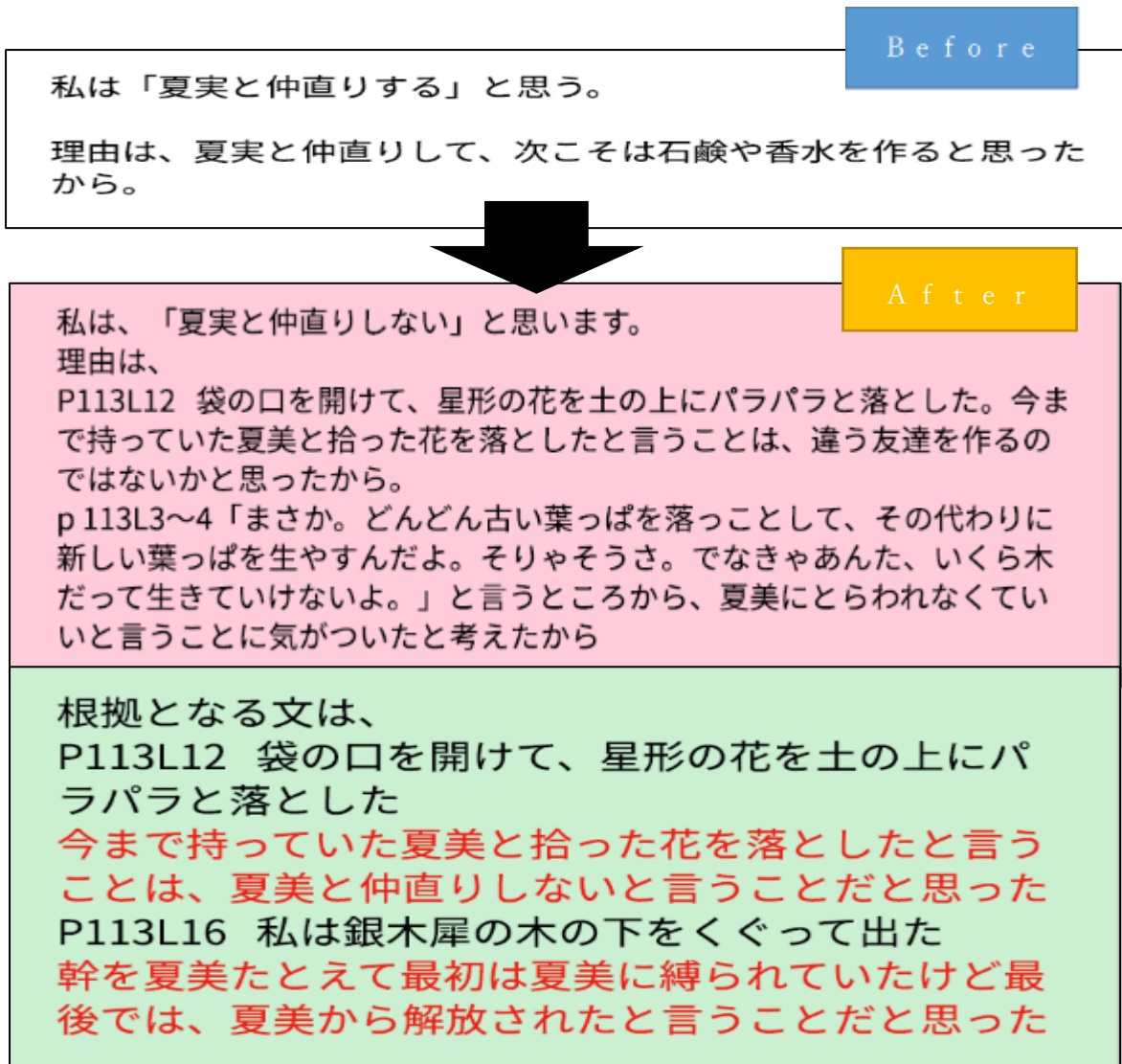


図 2

その結果、振り返りアンケートの「ICTを活用して交流することで、自分の考えを広げたり強化したりすることができたと実感した」に対する肯定的評価は90%を超えた。(図 3)

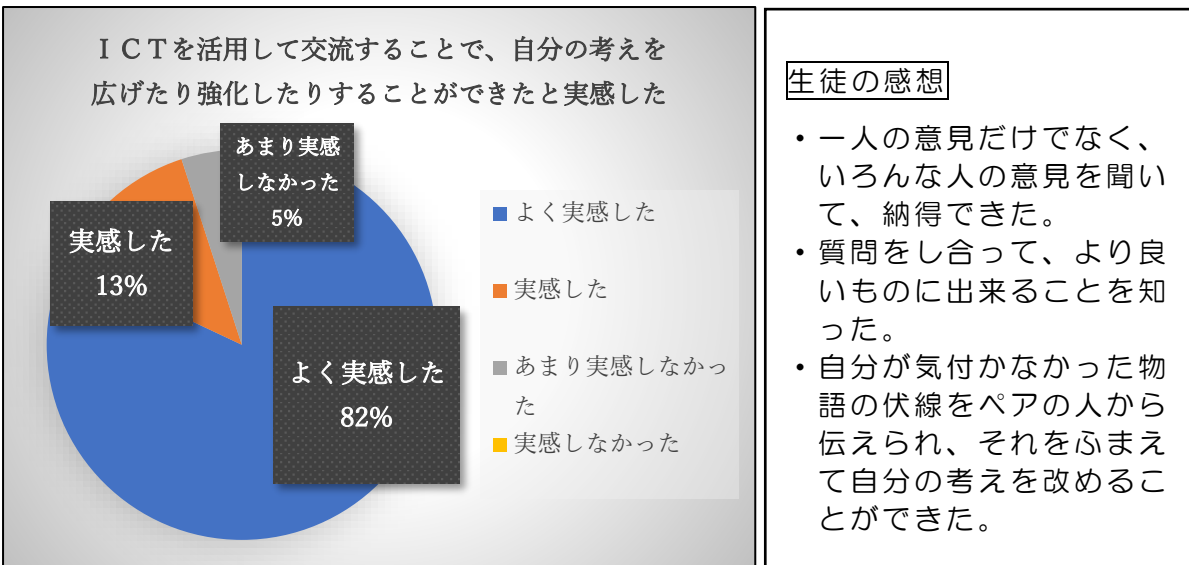


図 3

(2) 研究テーマに関わって

単元を貫いた目標として、「続き物語」の作成を据えることで、常に本文記述に立ち返り根拠となる記述に着目しながら読み進める姿勢を意識させることができた。生徒は根拠となりそうな記述に線を引くなどして意欲的に教科書に書き込みを行っていた。

本実践では、「続き物語」の展開を3つのパターンから選択するような主発問を行った。主発問を「なぜ～か?」という why 型ではなく、「どちらが～か?」という which 型にすることで、生徒が自らの立場を元に本文記述に迫りやすくなるように工夫した。その結果、生徒は自分の考えを裏付ける根拠となる記述を主体的に探し、ペアでの意見交流に生かすことができていた。また、「続き物語」を考えるために、文章全体を読み直す必要感が生まれ、多くの生徒が根拠となる記述を複数見つけて、それらを組み合わせて自分なりの解釈を作ることができた。

(図 4・5)

◎続き物語

私は銀木屋の木の下の下をくぐって出た。

翌日の夕方の帰り道、私は銀木屋の木の横を通りかかった。私は銀木屋の木の下の誰かがいることに気がついた。暇なので行ってみた。一瞬思考が止まった。でも、はっきり分かった。夏実だ。あそこには夏実だ。たんだ。でもなんで? 待て、今しか話すチャンスはない。けれど正直、話しかけていいのかわからない。仲直りしたいけど、私は一度無視されているから、嫌われているかもしれない。でも、勇気を出して話しかけてみることにした。私は一歩一歩近づいた。また心臓がときどきしているのが分かった。声をかけようと思ったら、夏実がこちらをむいた。

「……。」

「……。」

「どうしよう。二人とも黙ってしまった。喋らなきゃ。」

「あの、夏実……。私、夏実と仲直りしたくて……。」

「……。」

夏実が黙ってしまった。何を思っているのか不安だ。でも、返って来た言葉は意外なものだった。

「ごめんね。」

「本当は話したかったんだけど……。」

夏実は私に色々話してくれた。本当は話したかったこと。仲直りしたかったこと。ここにすれば私と会えると思ったこと。そして、

「銀木屋の花を拾おうよ。二人で、また。」

嬉しかった。そう言ってくれたことが、だから、

「うん! 今日、夏実と話せて良かった。私、夏実と違うクラスだけど、一人でも頑張るね。また時々一緒に話そうよ。」

「うん。頑張ろう!」

もう大丈夫な気がする。きっとなんとかやっつけていける。

話していたらいつの間にか銀木屋の花でいっぱいになっていった。私の心が幸せな気持ちで満たされていく。これじゃふめない、これじゃもう動けない、と夏実と私は時に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑いあった。笑った顔は夜空を明るく照らす星のような大好きな夏実の笑顔だった。

夕日が沈む。沈んだもの、それはきっと今までの私。明日の朝日は新しいこれからの私。

図 4

◎続き物語

私は銀木屋の木の下の下をくぐって出た。

翌日の朝、私はいつもより少し明るい気分で行った。そしてこの日は、クラス全員に「友達」として接した。戸部くんとも仲良くなり、「学校が楽しい」と感じるようになっていった。

放課後、夏実を呼び出した。そう、あの場所に。私は夏実に話した。「あの約束守れなかったね。」と。でも夏実は、「うん、そうだね。」と

だけ言い、そっけなく行ってしまった。私は「これでいいんだ。」と自分に言い聞かせた。とても悲しくて、涙が出そうだったけれど、それでも私にはクラスの仲間達がいる。だから、私はすぐに立ち直れた。あれから銀木屋には行ってないし、夏実とは話していないけれど、毎日学校が楽しいと思えた。これもあの時の行動をして、みんなが受け入れてくれたおかげ、おそらく、今みたいな学校生活は送れなかっただろう。夏実の様子を廊下で見ていた私は、夏実も他のクラスの友達と仲良くやっていたから思わず、「よかつたね。」と口に出してしまっていた。戸部くんがそれを見ていたんだ。少し恥ずかしかったけれど、でも今はそんなこと全然気にならなかつた。

これからはこのクラスと一緒に楽しい学校生活を送っていきたいと思う。

図 5

(3) 今後の課題

まず、課題として挙げられるのは、ICT機器と板書のバランスである。本実践では、ほとんど板書をせずにタブレットを活用して授業を進めた。板書に見通しを書いて可視化していなかったため、本時の目標や解決したい課題の共有が不十分になってしまった。主としてタブレットを用いる場合でも、いつでも即座に見返せる板書に学習の見通しや生徒のつぶやきを書くなどして、ICT機器と板書をバランスよく扱っていく必要性を感じた。

次に課題として感じたのは、「対話の質」である。生徒は自らの解釈について根拠を明らかにしながら説明し合い、必要に応じて質問をすることができていた。今後はその後に、互いの意見を批評し合わせる段階まで進めたい。それが「自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりする」力をより一層向上させると考える。また、本実践ではペア活動を主として意見交流を行ったが、それだけで交流できる人数が限られてしまい、多様な解釈に触れづらくなってしまっていた。生徒の記述を比較すると、注目した根拠は同じだが理由づけや立場が異なるという「ズレ」が複数見られた。「個での思考→ペアでの交流」で終わらせずに、その後生徒同士の思考の「ズレ」を全体で共有することで、より深い学びにつながるであろうと考える。

本実践の研究テーマは「複数の場面と描写を結び付けて内容を解釈する力を高める授業づくり」であった。生徒は概ね二つ以上の場面や描写を結びつけて自身の解釈を作ることができた。しかし、全体的な傾向として、文章の比較的狭い範囲から複数の根拠を見つけていた生徒が多かった。今後、研究テーマにさらに迫っていくためには、もっと広い範囲の中の複数の記述を根拠として関連付ける力を育てていくことが重要であると考え。そのために、これからの実践においてさらなる発問の工夫を行っていきたい。

【参考・引用文献】

- ・高木まさき、荻中奈穂美、三浦登志一『板書で見る全単元の授業のすべて 国語 中学校1年（板書シリーズ）』東洋館出版社. 2022
- ・島田俊哉、八木雄一郎「文学的文章の学習指導における『続き物語』の採り入れ方—『星の花が降るころに』（光村図書・中学校第1学年）の実践から—」信州大学教育学部研究論集第13号. 2019